

卷. 読解

1. 次の文章を読んで、線の引いてあるところの人物の言動や様子から、どんな心情が読み取られるのか、簡単にまとめよう。30%

ある寒い日の午後、私は食後の茶でくつろいでいた。表に人の気配がしたので、振り返ってみた。思わずあっと声が出かかった。急いで立ち上がって迎えた。

来た客はルントウである。一目でルントウとわかったものの、①そのルントウは、私の記憶にあるルントウとは似もつかなかった。背丈は倍ほどになり、昔のつやのいい丸顔は、今では黄ばんだ色に変わり、しかも深いしわがたたまれていた。目も彼の父親がそうであったように、周りが赤くはれている。私は知っている。海辺で耕作する者は、一日中潮風に吹かれるせいで、よくこうなる。頭には古ぼけた毛織りの帽子、身には薄手の綿入れ一枚、全身ぶるぶる震えている。紙包みと長いきせるを手に提げている。その手も、私の記憶にある血色のいい、丸々した手ではなく、太い、節くれだった、しかもひび割れた、松の幹のような手である。

②わたしは感激で胸がいっぱいになり、しかしどう口をきいたものやら思案がつかぬままに、ひと言、「ああルンちゃん—よく来たね...。」 続いて言いたいことが、あとからあとから、数珠つなぎになって出かかった。チアオチー、跳ね魚、貝殻、チャー...。だが、③それらは、何かでせき止められたように、頭の中を駆け巡るだけで、口から出なかった。

*ルントウ (人名)

(『故郷』 魯迅・竹内 好/訳)

2. 次の単語の読み方を書きなさい。そして、日本語で簡単に説明しなさい。

(2 + 3) × 5 = 25%

- ①似もつかなかった ②黄ばんだ色 ③古ぼけた毛織りの帽子
④節くれだった ⑤数珠

系別：日本語文學系

科目：日 文(閱讀、作文)

本試題共 2 頁、2 大題

3. 次の文章を読んでから質問に答えなさい。20%

ほとんどの日本人の住宅街の近所には、小さな店が点在している。非常に競争が激しく、どの店もおまけの習慣を多かれ少なかれ持っている。(中略) いつ、どれくらい、そして誰におまけをするのか？これを理性的に考えれば、よくその店に買いにくる客、長い目で見れば一番儲けさせてくれる金離れのいい客に、店屋は喜んでおまけする、ということになるだろう。しかし、日本では理性というものは最終判断の基準ではあり得ない。おまけをする習慣は、値段表よりも店主の気分によるところが多く、金離れがよくても傲慢な客より、少々けちでもチャーミングな客に対しておまけを振舞う傾向のほうがずっと強い。(『日本についての100章』朝日新聞社)

問①なぜ店主は、同じぐらい簡単に不必要に高い全体の値段をおとすことができるのに、不必要なおまけをするのだろうか。(答えの漢字に仮名を振りなさい) 10%

問②「金離れ」の読み方を書き、日本語で意味を説明しなさい。(答えの漢字に仮名を振りなさい) 10%

式、作文 25%

「ステレオタイプ」について 250 字以内でまとめなさい。